

「172のころ」

暑かったこの夏、色水を凍らせて、氷あそびをしたときのことです。Tさんが、砂の入ったプラスチック容器の上に氷を置き、その氷の上に砂をかぶせました。その様子をじーっと観察していたTさん。「せんせい、みて！氷が見えてきた！」と目をキラキラ輝かせておしえてくれました。S先生に伝えたあと、今度はM先生へ。”ぼく、すごいこと見つけたよ”と、その感動を全身で伝えてくれました。その後も、氷の様子をじーっと観察しているTさん、今度は容器に水がたまって、今まで見えていた氷が反対に見えなくなり「こおりがちいさくなった」とTさん。シャワーがあたる場所によって砂が動いたり、氷がかおを出したりする事象の変化を不思議そうに、面白そうに観察し、”こんどは どうなるんだろう”とワクワクは最後まで続きます。

子どもたちは大好きなものを見つけると、嬉しくて心が動き出します。それが「もっとやってみたい」という意欲を育む、想像や新たな気づき、創造を生み出します。また、自分の手や足、体で触れて試していく子どもの姿は、周囲の事物や環境をより豊かに感じ・関わる、とても大切な育ちの姿です。

これからも子どもが感じていること、興味をもっていることをしっかりと受け止めて、遊びを支えていきたいと思えます。





Mくんのこんな姿は初めてだったそうです。"いつもMくんは、Kくんからよく言葉してもらってるんです。それをMくんも他のお友だちに返してあげたのかなあ。"と、担任はうれしそうに話していました。
 この中には愛情の器があるのだそう。人からもらった優しさや愛情はその器にどんどん溜まっていき、それがあふれた分が、他者への優しさや愛情となり表出されます。自分が愛されて、自分の存在を自分で認め、その先に他者に向けられる愛情がある…。そう考えると、私たち大人にできることは、その子のじの路をたどり、サポートしてあげること！愛情はいくら与えても与えすぎることはないのです😊

園玄関の理念を新しく作り変えました。そこには、「そのままの自分を認められること 夢中になって遊びこむこと 自分の居場所を見つけること 本物にふれる体験を 心揺さぶられる体験を」という、私たちからお子様への約束が書いてあります。どれも大切な約束なのですが、それぞれの約束を支える根底にあるのは、3つめの「自分の居場所を見つけること」だと私は考えています。居場所とは、「息がしやすい場所。自分らしくいられるな、と感じられる場所。」のことだそうです。

先日テレビで、あるアメリカ人のシングルファーザーと娘さんの物語を見ました。その父親は、母親不在で生じる我が子の寂しさをどうにか埋めたいと、7年前に髪のアレンジを習い始め、今では父親向けのヘアアレンジ講座を開いているそうです。現在9歳になった娘さんが「パパに髪を結んでもらったことは嬉しかった。でも、髪を結んでくれている間、パパが私といてくれたことがもっと嬉しかった。」と話していました。そして最後の父親の言葉。「子どもにとって親は完璧(perfect)でなくて良い。ただそこにいる(present)こと、それが大切だと思う。子どもにいつもそばにいと知ってもらおうことが。」

英語で present には、「そこにいること」という意味の他に「現在」「贈り物」という意味があります。他のご家庭が完璧に見えたり、もっと良い親になるために日々奮闘され、時にはなぜ自分は…と、自己嫌悪に陥ったりしてしまう保護者様がいらっしゃるかも知れません。しかし、何か特別なことをするのはなく、ただ、すぐ傍に皆様が今、いること。それこそがお子様「息がしやすく、自分らしくいられる場所」となり、日常を特別なものにする「贈り物」となる。

私たちもお子様にとっての第2の居場所となることができるよう、日々努めて参ります。そして、願わくば、ほんの少しでも、保護者の皆様の居場所にもなることができたなら、とても幸せです。

